

シュンギク夏まき栽培の播種期と品種特性

山村 真弓・佐々木丈夫

(宮城県園芸試験場)

Sowing Date and Characteristics of Varieties on
Summer Sowing Garland Chrysanthemum (*C. Coronarium* L.)

Mayumi YAMAMURA and Takeo SASAKI

(Miyagi Prefecture Horticultural Experiment Station)

1 はじめに

シュンギクは健康野菜として消費者ニーズが高まっており、周年供給が望まれている。しかし、比較的冷涼な気候を好むので、夏期高温期の栽培は困難である。そのため、夏まき栽培に適した品種を選定する目的で6月～8月播種の雨よけ栽培で品種特性を検討した。

2 試験方法

1990年～1991年の2年間播種期と品種を検討した。'90年は播種期を6月1日、21日、7月11日の3回とした。各播種期とも「青波（カネコ）」、「ささめ（トキタ）」、「夏の精（石原）」、「株張中葉S型」同NW型（以上山陽）」、「東京株張春菊（日本農林社）」の株張種6品種と「早苗（カネコ）」、「きわめ中葉（タキイ）」、「総の春（みかど）」、「竜光（トキタ）」、「さとゆたか」中葉（以上サカタ）」の株立種6品種を供試した。'91年は播種期の幅を広げ、5月31日、6月20日、7月10日、8月1日の4回とした。品種は「株張中葉NW型」東京株張春菊、株張中葉新菊（高山）」、「流麗2号（松永）」の株張種4品種とおやさと株張中葉と（大和農園）」、「きわめ中葉」さとゆたか、中葉、流麗（松永）」の株立種5品種を供試した。兼用種は株立種に分類した。

栽植距離はうね幅140cm、ベッド幅100cm、条間20cm、株間10cm（a当り3570株）とし、施肥量はa当り成分で、N-2.0kg、P₂O₅-1.5kg、K₂O-2.0kgとした。収穫は摘み取りとし、主枝28cmで株元2葉残して収穫し、その後側枝を25cmで収穫した。試験は1区2.8㎡、2反復とした。

3 試験結果及び考察

'90年の各播種期の品種別株当り調整重を図1に示した。株張種は、6月1日、21日播種では主枝の伸張がみられず、摘み取り収穫ができなかった。また兼用種である「総の春」は6月1日播種で摘み取り収穫が不可能であった。7月11日播種では各品種とも摘み取り収穫が可能であった。「総の春」及び株張種の各品種は、摘み取り収穫が可能な場合は、株当り調整重は株立種より重くなった。各播種期で、摘み取り収穫が可能で株当り重量が重い品種は「きわめ中葉」竜光」であった。

播種期から摘み取り収穫までの日数は、表1のとおりで、主枝では、6月1日播種は「きわめ中葉」が43日、その他の株立種4品種が36日、6月21日播種は「総の春」が46日、その他の株立種が43日、7月11日播種は、全品種とも47日であった。また、各播種期での収穫終期（側枝収穫）までの日数は55日前後であった。

心枯れ症の発生程度と抽台程度を表1に示した。心枯れ症は、播種後30日ごろから発生がみられ、収穫直前に多発する傾向があった。全般に株張種で発生が多く、株立種で少ない傾向があり、品種では「ささめ」で発生が多かった。抽台は、例年6月播種が最も発生しやすい。6月1日播種では、「さとゆたか」でやや発生が確認されたが、その他

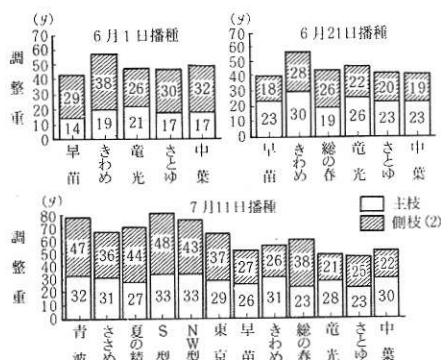


図1 播種期別品種の調整重

(主枝1本、側枝2本：1990年)

の品種はほとんど発生がみられなかった。

'91年の播種期別各品種のa当り収量は図2のとおりで、各品種とも7月11日播種で収量が低下する傾向がみられた。各播種期とも「きわめ中葉」おやさと株張中葉、中葉、流麗」が安定して収量が多かった。

収穫までの日数を表2に示した。各播種期のいずれの品種も摘み取り収穫が可能で、播種から主枝収穫までの日数は、5月31日播種では株張種が45日、株立種が35日、6月20日播種では株張種が48日、株立種が42日、7月10日播種では株張種が50日、株立種が43日、8月1日播種では株張種が55日、株立種が42日であった。'90年の試験でも同様な傾向を示したが、平均気温が20℃以上になる場合は生育抑制がみられ、高温期ほど収穫までの日数が多かった。各播種期の播種から収穫終了までの在圃期間は60日前後で'90年とほぼ同様であった。

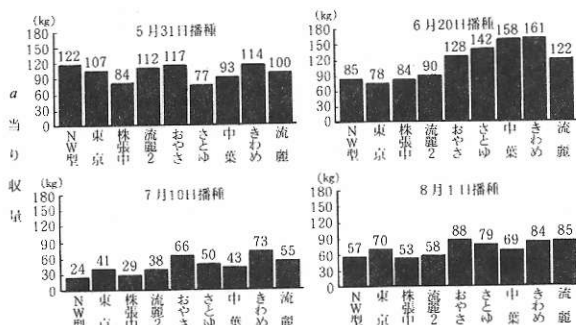


図2 播種期別品種のa当り収量 (1991年)

心枯れ症の発生は'90年と同様に株張種がやや多く、株立種で少ない傾向がみられた。品種では'株張中葉新菊、流麗2号'で発生が多かった。

抽台は各品種ともほとんど発生がみられなかった。

葉の欠刻が深く、葉にポリウム感のあるもので、市場性が高い品種は、'きわめ中葉、竜光'で、'さとゆたか'は糸葉状でややポリウム感が足りなかった。

4 ま と め

6月～8月播種の雨よけ栽培では、栽培期間(在圃期間)は60日前後で、収量、品質、心枯れ症発生程度等から株立

種が適しており、品種は'きわめ中葉、おやさと株張中葉、中葉'が有望と思われた。

有望品種の特性をまとめると、'きわめ中葉'は主枝の収穫が播種後40日前後で、茎葉の伸張はやや遅いが、葉の欠刻が深く葉色は濃緑である。a当り収量は播種期によって異なるが80～160kg程度である。'おやさと株張中葉'は主枝の収穫が'きわめ中葉'より3日程度早い。a当り収量は70～130kgである。'中葉'は主枝の収穫が'おやさと株張中葉'と同程度で、a当り収量は40～160kgで播種期による差がやや大きい。

表1 播種期別各品種の収穫までの日数、心枯れ症及び抽台発生程度(1990年)

品種名		播種期 (月日)	播種から収穫までの部位別日数			心枯れ 症発生 程 度	抽 台** 程 度
			6.1	6.21	7.11		
			主 枝	主 枝	主 枝		
株 張 種	青 波		—	—	47 (58)	++	±
	さ さ め		—	—	47 (58)	+++	±
	夏 の 精		—	—	47 (58)	+	—
	株張中葉S型		—	—	47 (58)	++	±
	株張中葉NW型		—	—	47 (65)	+	—
	東京株張春菊		—	—	47 (58)	+	+
株 立 種	早 苗		36 (57)	43 (51)	47 (58)	+	±
	き わ め 中 葉		43 (57)	43 (51)	47 (58)	+	±
	総 の 春		—	46 (51)	47 (58)	+	—
	竜 光		36 (57)	43 (51)	47 (65)	+	—
	さ と ゆ た か		36 (57)	43 (51)	47 (58)	+	++
	中 葉		36 (57)	43 (51)	47 (58)	+	+

注. —は摘み取り収穫不可能。()は側枝の収穫までの日数。

* : 各播種期の平均発生程度。 —無, +少, ++中, +++多

** : 最も発生の多い6月1日播種での抽台程度。 —無, ±極少, +少, ++中

表2 播種期別各品種の収穫までの日数、心枯れ症及び抽台発生程度(1991年)

品種名		播種期 (月日)	播種から収穫までの部位別日数				心枯れ 症発生 程 度	抽 台** 程 度
			5.31	6.20	7.10	8.1		
			主 枝	主 枝	主 枝	主 枝		
株 張 種	株張中葉NW型		45 (53)	48 (60)	50 (55)	55 (61)	+	—
	東京株張春菊		45 (53)	48 (60)	50 (55)	55 (61)	++	—
	株張中葉新菊		45 (53)	48 (60)	50 (55)	55 (61)	+++	—
	流麗2号		45 (53)	48 (60)	50 (55)	49 (61)	+++	±
株 立 種	おやさと株張中葉		35 (47)	42 (60)	43 (50)	42 (49)	+	±
	さ と ゆ た か		35 (47)	42 (60)	43 (50)	42 (49)	+	±
	中 葉		35 (47)	42 (60)	43 (50)	42 (49)	++	±
	き わ め 中 葉		38 (47)	42 (60)	43 (50)	42 (61)	+	—
	流 麗		35 (47)	42 (60)	43 (50)	42 (49)	++	±

注. ()は側枝の収穫までの日数。

* : 各播種期の平均発生程度。 —無, +少, ++中, +++多

** : 最も発生の多い5月31日, 6月20日播種での抽台程度。 —無, ±極少, +少, —中